

---

## 金 田 憲 治

議長（村松 積） 次に、3番、金田憲治君、質問を許します。登壇願います。

3番（金田 憲治） 3番、金田憲治です。

通告に基づきまして、村営水道について質問をいたします。

現在の村営水道は、阿智村の恩田井水から水をもらい、昭和61年から建設が始まり、平成3年には全村で水道が使用できるようになりました。

過去にも給水普及率が10%台と低い親田簡易水道が作られたその経緯もあります。水に対しては、非常にその確保に大変ご苦労されてきたということでございます。

そういう点からしますと、毎日安全な水を当たり前のように使っておりますが、改めてありがたさを感じるところでございます。

さて、本年8月1日夜、桃立と山田河内の一部の住宅で断水が発生いたしました。先ほど村長からのお話もありました。その対策に村長はじめ職員全員での対応、それから関係業者の日夜にわたる努力の結果、大した混乱もなく復旧された対応に敬意を表するところでございます。

翌日、原因が判明し、連結管の排水問題も含め、3日には復旧されました。

管を布設してから20余年となっております。管もだんだん老朽化していきますし、また地震などいろいろのその外的要因によって破損することも考えていかなければなりません。そのような場合には、一刻も早く原因を究明し、復旧することが大事で、今回の断水から改善策がどのように検討されたかお伺いをしたいと思っております。

次に、本年も観測史上初めての降雨量など報道されております。先ほど村長の方も「ゲリラ的」というようなお話ありましたけれども、よくその「バケツの水をひっくり返したようだ」という表現ありますけれども、局地的に短時間に相当量の雨が降るケースが非常に多くなったように思います。このことは予期し得ない自然災害が発生する可能性が高くなってきていることが考えられ、あってはならないんですが、下條村の浄水場に水が来ないことも想定されます。

村はその対策として、緊急時に親田から親田が管理している水を供給するよう契約をされております。より安全性を高めるため、井戸水の活用や他の河川からの原水供給など、多面的にその水を確保することが重要であると思っておりますので、水に関しまして今まで調査

をされてきておられると思いますが、それをさらに調査を実施して、それを生かしていくということをしたらどうかということをお伺いいたします。

また、村長は、第5期目に当たりまして、村政推進の施策として、さらなる定住人口の増のため、村営住宅の建設や子育て支援、それから企業誘致に力を注ぐと、こういうように報道されております。その場合、一番重要なことはやっぱり原水確保、これが大変重要なことになると思います。

これをどのように検討されているか、検討されていたらその方法論等をお伺いしたいと思います。

これで質問を終了いたします。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 金田議員の質問にお答えいたします。

村営水道、水ということでございまして、生活する上で水というのはもう徹底して大変なものであるという。しかも良質な水というのはなかなか得られないわけでございます。

下條村もなかなか環境のいい村でございましてけれども、1つの大きな欠点として水が非常に少ない、水源が非常に少ないということでございます。

このことについて、本当に村では長い間苦勞いたしました。昭和58年、私が、私がとってはいけないんですけれども、総務委員長になった時でございます。このままでは下條村は二進も三進もいかんじゃないかということで、なかなか歴代取り組むことが難しく、踏み出すことができなかったわけでございますけれども、これは何が何でもやらなければならないということでございます。あるものを借りてきてやるということは問題がないし、あるものを買ってくればいいんですけれども、なかなか水はそうはいかないということで、このことについて、ちょうど奥の山脈があるんですけれども、下條村ちょうど馬の背のようなもので、流れの本流は阿智村の阿知川へいたり、浪合川にいたり、片や門原川にいたりいろいろして、本当の本命というのは下條村分けてしまうわけでございまして、水がどうにか当時からあったというのは仁王関、それから新井、鎮西、吉岡、菅野、それから手塚原も水は非常に出るんですけれども、上流の農地からの窒素過多ということで、あの時分おんぼろ屋敷に保育園があったわけでございますけれども、保育園の水道さえ飲料不適であるというような問題も出ておったところでございます。

合原に至っては、ご承知のように水源の文句があれば水は止めるぞというような歴史もあるわけでございます。

北又にいくとほとんど水はない。それから山田河内もそれぞれの小さな集合住宅、あれも1つあの昔のあり方というのは、1つの水源をみんなで大事にしながら、水道組合を作ってコミュニティー作るということ。これもまんざら悪いものではないんですけども、この水質検査だとか、それから水源確保というような問題もいろいろあるということでございます。

粒良脇の辺もあまりなかったのかなと。阿知原、小松原もなかったという状態。

親田に親田水道というのがございました。相当いい加減な水道でございまして、あの当時よくあんなものが補助対象になったかなと思うんですけども、例えば管を埋けるにしてもあれ40cmくらいの指定だったかと思いますが、20cmからたまには出たようなところもあって、それから断水、漏水があって、補足率、元で10出すと集金してみると6しか集まらない。4は漏れてしまっておるということ。そして塩ビ管をソケットなんていうの当然なくて、トーチランプで焼いて、うまく接着剤つけたんだかつけんだか分からんような。それでカーブのところで、ガクンと曲がったようなものを作ってやっておったわけでございます。

これではどうしようもないじゃないかということで、私もこのことについては生き字引でございまして、波瀾万丈の苦労もいたしました。

これは今日、協議会でやはりこの問題が出たからここでやると30分やっても止まりませんので、協議会の方で詳しくご説明申し上げます。

皆さんも恩田井水を歩いていただいたと思います。歩くだけであれだけえらいところを明治の何年だか知らんけれども、明治の先輩たちがトンネル掘ったり外回り何か夜提灯つけて測量したような話も聞きまして、大変なところから、最初は下條村では縦井戸を掘りましょうということで、空中探索、ヘリコプターで破碎対というか、水脈を見て4カ所だか6カ所設定したわけでございます。

最初に1本掘り出したら機械がビックリ、大きすぎてビックリしちゃって、地元の皆さんから総反発。「あそこが反発するんならおら方もあぶねえぞ」ということでこれは駄目になり、それから次には浪合の大根沢というところへ行って、いろいろやりました。元村

長の伊藤義寛君にもさんざん議会時分にお世話になって、いろいろ手配していただいたんですけれども、これが経費が掛かりすぎて仕方ないということ。

理事者は何でももうやるぞということでございましたけれども、そこで降って湧いたように恩田井水。上原ちゅうさんという私の議員仲間がおりまして、「ちょっと原武平というような助役に話してみる」ということから始まり、今の串原義直さんにもさんざんお世話になって、逆転劇で今の水源ができたわけでございます。

本当にあの皆さんは真剣になって、村もそうでございますけれども、下條村に何かがあっては困るということで、本当に一生懸命やっておっていただいてありがたいことでございます。

そこでついでに申しますと、今もしそのあれが駄目になったらどうするかということでございますけれども、そのとおりでございますけれども、親田の井水、あれも湧水期、水は当然もらえるように契約はしてあるわけでございますし、それなりの堰堤というか、基礎の築堤はしてありますけれども、あれが湧水期には水がかれるということでございまして、要らんときならいくらでもいいんですけれども、要らんときは要らんわけでございますので、ありがたいと同時に不安だなということと、もう1つ桂川、確かに桂川という川があります。この恩田井水から分水して下條へ道路に従ってくるわけでございます。この辺に桂川という、この水量の多い川があるわけございまして、これも最悪の場合はいただけるようになっております。

それと同時に、阿智村も下條村もこの水源、水路を確保しなければいけない。今やたら昔のトンネルというのは落盤するわけございまして、下條村にもこのごろ大久保の落盤がございました。

昔のトンネルは、人が通るのにやっとならざるわけございまして、そして巻きたてはしてないということでございます。

今の工法で修理せよということになると、安全対策から始まるわけございまして、現地へ行くまでにほとんど予算を使い切ってしまうというようなことで、大久保の場合は外回りにいたしました。

合原の新井の場合もちょっと落ちただけで5～600万円、1回事故が起きるとそういうことで一反歩で20万円も30万円も負担が掛かるわけでございます。これも命がけで

修理をいたしました。

そういうことで下條とも阿智とも相談いたしまして、この際1つは3億掛けて団体営の補修、今管理道路も、今は管理道路ができたんですけれども、もらう時分なんていうのは管理道路なんていうのは何にもなくて、大変なところでした。管理道路もできて、トンネルの巻きたてをするか。それからさらに8億円掛けてやるかということで、おおむね8億の方に決まりつつあります。

これは県の事業としては、非常に大きいわけでごさいます、そういうふうな万全の体制でやるわけでごさいますけれども、これも非常に補助率が良くて、自己負担が1億5,000万円くらいで上がる事業でごさいます。これに今取り組んでおるところでごさいます、これからも阿智村とそれから恩田井水と下條村というのはきちりと信頼関係を築きながらやっていくのが第一基本でごさいます。

さて、断水の件でごさいますけれども、これはやってみましたら若干のこの管の交差、劣化は全然ありません。ダクタイトイル管も見ましたけれど、劣化の症状は見られないんですけれども、管が交差したわけでごさいます、この交差しておるところへ持って行って、常に土の中で湧水があって、それで微妙に揺れておる中でこれが、ダクタイトイル管が塩ビ管をつぶしてしまったと。縦に亀裂が入ってそしてやってしまったということでごさいます。この探究には、非常に時間掛かりました。

そこで反省点といたしまして、各分岐点にまたさらにバルブの大きいのをつけて、「よし、ここを閉めたらここ何ともないな、ここ閉めたらここ何ともないな」ということで、各分岐点を作ってそしてチェックする体制をとります。

今回の場合は、山田河内の配水池、これがずっと減ってしまうということでごさいます、粒良脇なんだか小松原なんだか阿智川なんだか、なかなか分からなかったわけでごさいますけれども、そういうのをこれからつけるように今設計に入っております。これからもつけていくということでごさいますけれども、今のダクタイトイル管というのはすばらしいもんでございまして、20年たとうが何ら劣化現象が起きていないということで、いい部材かなというふうに考えております。

それから内容でごさいますけれども、ご承知のように1日に1,520トンからマックスで2,400トンまで処理できます。これは基本的に言うと、私も当時の時代的背景で

人は減っていくばかりでございます。「これはちょっと大きすぎりゃせんか」というようなことで、もうばかみたいな話をしたもんでございますけれども、そういう時代でございます、2,400トンできれば余裕はあります。

1日に使う量は村民の使う量が1,000トンでございます。スタンダードで、1,000トンのところへもってきて、最低でも1,520トン処理でき、マックスでやれば2,400トンできるということでございます。

問題は、一番使うのは飯田カントリーと山岸さんでございます。これは、よく特殊政党の皆さんが、「それは、そんなもの飯田カントリーなんか止めてしまえばいいよ」なんていう乱暴なご意見がございました。あのゴルフ場を誘致するにも、今ゴルフ場はあんまりもうからないんですけれども、あの当時誘致するのは村は命がけでやりました。そして浄水、水道はいくらでももちろん料金はもらうんですけれども、水道はいくらでも使っているよということを条件に企業を呼ばってきたわけでございます。よばってきたら水が足りなくなると止めちまえと、こんな乱暴な方法はないわけでございますし、ゴルフ場芝も1回枯らしたらなかなか回復ができないわけでございます。

そこで私どもとしては、供給責任はあるということでございますけれども、一時ゴルフ場が1日に700トン使ったことがあります。猛暑の時分でございます。それでこれではいくらにしても下條村持たないよということでございまして、まく時間を深夜と早朝にしてもらいました。日中に今までばくばくまいておったわけでございますけれども、農家の方は分かると思いますけれども、レンズ現象でいくらまいても中途半端にやるとかえって危ないわけでございますので、そういうことでやっていただきました。

山岸さんも下條村の10%ぐらい使っておっていただきます。これも今までは牛ヶ爪からも引いてきております。ところが製品が非常に精密化して、あの水では不十分だということで浄水を使っておっていただきますけれども、今のこの省エネ時代でございます、企業も水をじゃぶじゃぶ掛け流しするような企業というのは親元からも敬遠されるそうございます。

それで山岸さん今本当に相当な金を掛けて循環型、1回使った水をまたもう1回循環しながら使えるという施設を入れるというか、入れる段取りをしておいて工事に入っております。そうすると相当楽になるのかなあとっております。

東海工業さんは、あの阿智川井水あれを使わせておっただいておるわけでございます。

いずれにいたしましても、水というのは命でございますので、これからも万全怠りのないように頑張っていくつもりでございます。

以上で答弁を終わります。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問がありましたら、いいですか。